

徳山工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)		授業科目	総合英語 I W	
科目基礎情報							
科目番号	0037		科目区分		一般 / 必修		
授業形態	講義		単位の種別と単位数		履修単位: 2		
開設学科	機械電気工学科		対象学年		2		
開設期	通年		週時間数		2		
教科書/教材	「Genius English Grammar in 27 Lessons」						
担当教員	長戸 喜隆						
到達目標							
1. 新出語句・表現を覚え、英会話の中で使えるようになる。 2. 講義や演習を通じて、英文法の基本的特性を正確に理解し、適切に表現することができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	新出語句・表現を覚え、スピーキングやライティングで適切に使用できる		新出語句・表現を覚え、スピーキングやライティングでかなり使用できる		新出語句・表現を十分に覚えることができず、スピーキングやライティングで適切に使うことができない		
評価項目2	講義や演習を通じ、英文法の基本的仕組みを十分かつ正確に理解し、適切に活用することができる		講義や演習を通じ、英文法の基本的仕組みを理解し、かなり活用できる		講義や文法演習を経ても、英文法の基本的しくみが十分理解できず、活用することができない		
学科の到達目標項目との関係							
到達目標 A 2							
教育方法等							
概要	1 年次に学習した英文法内容に続き、講義（演習）を通して基礎的・基本的な英文法力と英語表現力を身につける。						
授業の進め方・方法	「Genius English Grammar in 27 Lessons」を使用し、英語コミュニケーション力養成に必要な文法項目を体系的にマスターする。家庭学習としてテキスト準拠Workbookを課す。定期テストには、Workbookの内容も一定割合で出題する。授業では、テキストを使って文法項目を説明し、そのあと、演習問題をどんどん解いて重要事項の定着を図る。また、適宜、小テストを実施してして既習事項の定着を図る。講義兼演習として臨んで欲しい。						
注意点	5 0 分授業を週 2 回行う。章ごとに内容の定着度を問う小テストを行うことがある。1 回分の分量はわずかなので予復習を怠らないよう留意する。（1 週 2 時間の授業に対して家庭学習は 1 時間以上を目処とする。）授業では演習形式で発問し、回答を求める。授業への参加姿勢(Participation)は平常点部分で最終成績に反映される。（より具体的に言うと、授業中の私語、居眠り、忘れ物、予習の不徹底、携帯電話の使用などは厳禁。減点の対象となり、単位取得に影響を及ぼす。）						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	イントロダクション Lesson 2 動詞と文型(1)		シラバス説明、授業の進め方の説明 自動詞と他動詞、第 1 文型、第 2 文型、 第 3 文型		
		2週	Lesson 3 動詞と文型(2)		第 4 文型、第 5 文型、SVOOとSVOCの違い、there構文		
		3週	Lesson 6 完了形(1)		現在完了形（完了・結果、経験、継続） 現在完了進行形		
		4週	Lesson 7 完了形(2)		過去完了形（完了・結果、経験、継続） 過去完了進行形、大過去、未来完了形		
		5週	Lesson 8 助動詞(1)		can/could, may/might, must/have to		
		6週	Lesson 9 助動詞(2)		意志を表すwill/would 依頼・指示を表すwill/意向を問うshall 習慣を表すwill/would/used to		
		7週	Lesson 10 助動詞(3)		should/ought toの用法 had better/needの用法 助動詞+have+過去分詞		
		8週	中間試験		動詞と文型、完了形、助動詞の学習内容を習得していることを確かめる基礎的・基本的問題を出題する		
	2ndQ	9週	中間試験レビュー Lesson 11 受動態(1)		中間試験の答案返却と問題解説 受動態の基本形、さまざまな受動態、 SVOOの文・SVOCの文の受動態		
		10週	Lesson 12 受動態(2)		句動詞などの受動態、sayやbelieve等の受動態、getを使う受動態、注意すべき受動態		
		11週	Lesson 13 不定詞(1)		名詞的用法、形容詞的用法		
		12週	Lesson 14 不定詞(2)		副詞的用法、不定詞の意味上の主語 SVO to 不定詞		
		13週	Lesson 15 不定詞(3)		原形不定詞、不定詞のさまざまな形		
		14週	Lesson 15 不定詞(3)続き 期末試験範囲のまとめ		不定詞のさまざまな形（続き）		
		15週	期末試験		受動態と不定詞の学習内容を習得していることを確かめる基礎的・基本的問題を出題する		
		16週	答案返却 夏休みの課題の指示 Plus 3 不定詞を使った重要表現		期末試験のレビュー（問題解説） 夏休みの課題の指示、疑問詞+to不定詞、 be動詞+to不定詞、代不定詞、慣用表現		
後期	3rdQ	1週	夏休みの課題の回収 Lesson 16 動名詞(1)		課題を集める 動名詞の文中での働き、意味上の主語 動名詞の完了形/受動形		
		2週	Lesson 17 動名詞(2)		動名詞と不定詞の目的語 慣用表現		

		3週	Lesson 18 分詞(1)	分詞の限定用法・叙述用法、SVO+分詞
		4週	Lesson 19 分詞(2)	SVO+分詞 分詞構文の基本的な形と働き 分詞構文が表す意味/否定語の位置
		5週	Plus 4 分詞を使ったさまざまな表現	分詞構文の完了形 接続詞をつけた分詞構文 独立分詞構文
		6週	Lesson 20 比較(1)	比較変化、原級、比較級
		7週	Lesson 21 比較(2) Plus 5 さまざまな比較表現	最上級、原級・比較級を使って、最上級の 意味を表す表現 比較級のさまざまな表現
		8週	中間試験	動名詞、分詞、比較の学習内容を確認する基礎的・基本的問題を出题
	4thQ	9週	中間試験レビュー Lesson 22 関係詞(1)	中間試験の答案返却と問題解説 主格、目的格、所有格
		10週	Lesson 23 関係詞(2)	thatが好まれる場合、関係代名詞と前置詞 whatの用法
		11週	Plus 6 複合関係詞	複合関係詞、譲歩を表す複合関係詞
		12週	Lesson 26 仮定法(1)	直説法と仮定法、仮定法過去形、 仮定法過去完了形
		13週	Lesson 26 仮定法(2)	wishを使った仮定法、as ifを使った 仮定法、shouldを使った仮定法、 were toを使った仮定法、ifの省略
		14週	Lesson 26 仮定法(3)	if節に代わる仮定の表現 仮定法による丁寧な表現 仮定法を使った慣用表現
		15週	期末試験	関係詞、仮定法の学習内容を理解しているかどうかを 確かめる基礎的・基本的な問題を出题
		16週	答案返却と授業のまとめ	期末試験のレビュー（問題解説） 授業のまとめ

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	英語	英語運用の基礎となる知識	聞き手に伝わるよう、句・文における基本的なリズムやイントネーション、音のつながりに配慮して、音読あるいは発話できる。	3	前4
				明瞭で聞き手に伝わるような発話ができるよう、英語の発音・アクセントの規則を習得して適切に運用できる。	3	
				中学で既習の語彙の定着を図り、高等学校学習指導要領に準じた新出語彙、及び専門教育に必要となる英語専門用語を習得して適切な運用ができる。	3	
				中学で既習の文法や文構造に加え、高等学校学習指導要領に準じた文法や文構造を習得して適切に運用できる。	3	
			英語運用能力の基礎固め	日常生活や身近な話題に関して、毎分100語程度の速度ではっきりとした発音で話された内容から必要な情報を聞きとることができる。	2	
				日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を基本的な表現を用いて英語で話すことができる。	2	
				説明や物語などの文章を毎分100語程度の速度で聞き手に伝わるように音読ができる。	3	
				平易な英語で書かれた文章を読み、その概要を把握し必要な情報を読み取ることができる。	3	
				日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を整理し、100語程度のまとまりのある文章を英語で書くことができる。	2	
				母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、実際の場面で積極的にコミュニケーションを図ることができる。	2	
			英語運用能力向上のための学習	実際の場面や目的に応じて、基本的なコミュニケーション方略(ジェスチャー、アイコンタクト)を適切に用いることができる。	2	
				自分の専門分野などの予備知識のある内容や関心のある事柄に関する報告や対話などを毎分120語程度の速度で聞いて、概要を把握し、情報を聞き取ることができる。	1	
				関心のあるトピックについて、200語程度の文章をパラグラフライティングなど論理的文章の構成に留意して書くことができる。	1	
				関心のあるトピックや自分の専門分野のプレゼン等にもつながる平易な英語での口頭発表や、内容に関する簡単な質問や応答などのやりとりができる。	1	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	課題	合計
総合評価割合	0	0	0	15	0	0	15
基礎的能力	7.5	0	0	15	0	1.0	15
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0